

# 奄美野鳥の会に環境大臣賞

## 佐仁小、環境省自然環境局長賞

### きょうから 愛鳥週間 野生生物保護功労で表彰

#### 環境省発表

10日からの「愛鳥週間」を前に環境省は9日、野生生物保護に関し顕著な功績のあった個人及び団体を表彰する第77回愛鳥週間2023年度野生生物保護功労者表彰で、NPO法人奄美野鳥の会永井弓子会長に環境大臣賞、奄美市笠利町の佐仁小学校根釜文子校長、児童10人に環境省自然環境局長賞が授与されると発表した。14日に東京都港区の虎ノ門ヒルズフォーラムである「全国野鳥保護のつどい」（環境省、(財)日本鳥類保護連盟共催）の記念式典で表彰される。

た調査実施などが評価された。永井会長は「これまでの地道な活動を評価してもらいありがたい。すべての活動が自然保護につながるのだから、この受賞を励みにこれからも頑張る」と話した。

佐仁小学校は約19年間、奄美大島に生息していない野生のチョウ、オオゴマダラの飼育・観察活動の取り組み▽同取り組みを通して、自然を愛する心や優しいものに感動する心を見童一人ひとりに目指した情操教育への取り組みなどが評価された。奥園淳一教頭は「子どもたちの日頃の飼育・観察活動や環境に対する取り組みが認められてうれしい」と喜びを語った。

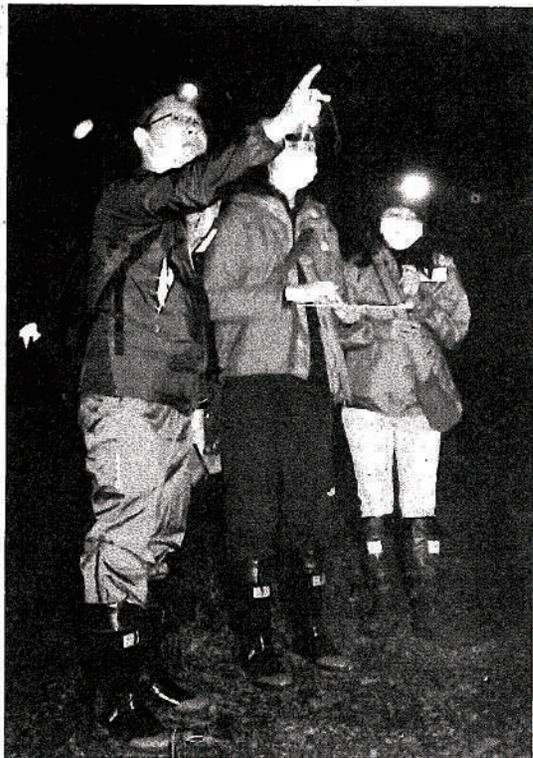
愛鳥週間は、野鳥を保護し愛鳥思想を広く国民に普及することを目的に、1947年4月10日に「バードデー」の集まりが始まった。その後、50年に毎年5月10～16日の1週間を「愛鳥週間」と定め、現在まで続いている。

発表によると、奄美リストの野鳥「オオトラツグミさえずり」の野鳥の会は▽長年にわたり、絶滅危惧Ⅱ類（環境省第4次レッドリスト）の野鳥「オオトラツグミさえずり」の調査を実施▽毎月1回以上の探鳥会、自

然観察会の開催、小・中学校への出前講座などの啓発活動▽ア冬サシバの保全に向け

希少種の生態調査や越冬サシバの保全に向け

希少種の生態調査や越冬サシバの保全に向け



奄美野鳥の会が継続している「オオトラツグミさえずり」一斉調査



オオゴマダラを観察する佐仁小の児童たち(提供写真)